



【総会スローガン】

● 平和的生存権・人間の尊厳を守る立場で、国連憲章・国際法に反する暴力・戦争を止めるために行動しよう

● 大軍拡を止め、多様性の尊重・ジェンダー平等といのち第一の政治を実現するために、共同組織とともに、地域から人権・公正の波を起こそう

● 70年の歴史を力に、「ケアの倫理」を深め、「2つの柱」の全面実践で、「人権の砦」たる民医連事業所を守り、発展させよう

「ケア」がめぐるっていれば、そこに居ることができる



第3回集約 (Vol.1～3)

学習会 累計 7,662 回

参加者 のべ 47,404 人

「ケアの倫理」café 第3回目の集約と感想をありがとうございました。

「ケアする人をケアするもの」(ケア労働者にもケアが必要)では、職場内におけるケアと同時に、「お金、人力、評価」が重要であることなどに関心が寄せられました。「国はケアを評価して」「報酬の公定価格が大事」「人間的、心の余裕があればケアもよくなる」「ケアがめぐる社会を」など、診療報酬・介護報酬の引き上げ、人員不足の解消などを求める声がたくさん寄せられています。

- 「café」という形でざっくばらんに語り合える事で、参加者はもちろん生きやすい社会につながると思う。
- 介護者自身の心身のケアが重要。ケアが巡りケアする人が支えられればケアされる人への安心感にもつながる。
- ケアはグルグル回っているのが、一番理想的な形だと思う。滞ると負担が偏ってしまう。
- ケアは構造的に目立たず意識しづらい。気づいてもそれを言語化できずにきた長い歴史があった。先人たちの努力を忘れてはならない。
- 介護労働は大変にも関わらず報酬が低い。賃金が低いから若い人が選ばない、離職につながる。
- 診療報酬や介護報酬の公定価格を決めているのは政治。投票に行こう！まわりにも呼びかけよう。

「ケアの倫理」café オンライン交流会の動画

職員のページ>

職員育成部>

「ケアの倫理」café

各地の取り組み



「café」気軽に取り組み

オンライン交流会に 300 人

7月9日に開催されたオンライン交流会には約 300 人が参加しました。報告いただいた県連のみならず、大変ありがとうございました。様々な工夫で職場づくりに生かされている様子が報告され、「気軽に取り組んでみる」ことが共有されたのではないのでしょうか。※動画参照

報告県連

- 青森 制度教育や職場で推進。「ケア」の取り組みとして、報告がない職場に声かけをしている。
- 群馬 学習や café が実践できている職場の職責者を取材してニュースにも紹介。
- 奈良 まだの職場には対話を通じて、「とりあえずやってみる」から始められるようアプローチ。
- 山梨 講師養成講座を開催。「ケアとはなにか」「透明化されるケア・ジェンダー不平等」など。
- 山口 「ケアの倫理カンファレンス」で各々のケア労働者の心をケア。平和への道でもある。
- 兵庫 医局で「耳から届くケアの倫理」(読み聞かせ)を開催。小さくてもあたたかさが生まれている。

【感想から】

- その価値さえ見過ごされてきたものに息を吹き込む各地の物語が生まれていくのを感じます。様々な学習形態の中で、みんなが何を感じ、どのように新たな道をつくるのか楽しみ。それでこそ民医連の活動と感じます。
- 全体を通して学んだことは、「café を行うことで育ち合いの職場づくりにもつながること」、「職員同士もお互いをケアしケアされる関係であることに気づくことで職場の心理的安全性を高めることにつながること」、「café の実践は職員育成指針の実践であること」。

「ケアの倫理」café 3回目集約(Vol.1～3) 取り組みの特徴

2025年7月18日 全日本民医連 職員育成部

- ①「café」企画が職場づくりにつながっています。「ケア」という言葉の広い意味を捉えなおし、日々の業務（ケア）を振り返る機会となっています。職場での語り合い、悩みや想いの共有、職員同士のケア、心理的安全性や相互支援などが、患者・利用者へのより良いケアにもつながることが語られています。
- ②「ケア」についての気づきが引き続き寄せられています。「市民のニーズに応える政治や共同組織の活動もケア」「あたりまえは気づきにくく誰かのケアで成り立っている」「無償の家事もケア」「自立した生活（他の人に頼らない）が評価される価値観がケアの不可視化を生んでいる」「ケアしている人はケアの大変さを分かってくれる人がいないと辛い」「ケアは誰かが誰かを支え、グルグルと回っている」など。
- ③自身の体験などを通し、家父長制やジェンダー規範によるケアの偏りへの気づきが多く語られています。母性が自然やイデオロギーと結び付けられ、ケアが意識されづらい構造となっていること、フェミニズムが果たしてきた役割、ケアを実践ととらえて「ケアの倫理」研究が生まれたことなども認識されています。
- ④「ケアする人をケアするもの」として「お金、人力、評価」が大切であることへ共感から、診療報酬・介護報酬の引き上げ、人員不足解消、時間や心の余裕が必要なことについて語り合われています。「国がケアの価値を認めケア労働を評価すべき」の声がいつそう広がっています。
- ⑤子どもは権利の主体（子どもの権利）、子育てや小児医療の現場から特に“参加する権利”を重視した感想があります。保育が子どもと保護者の人権を保障している視点から保育士への感謝、処遇や配置基準の改善が認可保育所のみでの適用であることへの驚き、国の責任を求める声があがっています。
- ⑦介護に関して、引き続き処遇の低さ、人手不足など制度改善を求める声が多くあります。ケアする人を社会全体でケアする仕組みづくりの必要性が明らかとなっています。また、「ケアの質と倫理」について、ケアは相手の尊厳に寄り添う営みであることが多くの声に共通しています。
- ⑧リハビリに関して、ケア実践を通じて利用者主体の視点の重要性や、ケアに関わる職員自身の葛藤や思いにも目を向ける大切さが語られています。働き方に関する課題、専門職としての役割を再認識する声も多く寄せられ、ケアの奥深さと難しさ、継続的な実践と学びの必要性が指摘されています。
- ⑨看護に関して、ケアはニーズを受け止めること、ケアを通して患者からケアされること、自らのケアが患者のケアの質につながるなどについて語られています。人員不足や制度のしほりによりケアが制限されてしまうジレンマ、そのなかでもニーズや尊厳によりそうチームケアの重要性などが語られています。
- ⑩ひきつづき、軍事費増の一方でケアがないがしろにされている社会への問題意識が語られています。「やりがいと使命感でケアを構築するのは限界」であること、医療・介護従事者が声を上げていくことの重要性、「ケアを大切に政治を変えるため選挙にいきましょう！」との声も全国からあがっています。

「ケアの倫理」café 各地の取り組みページのご案内

各地からニュース等を全日本民医連「職員専用のページ」に掲載しています。

全日本民医連 HP トップ＞職員のページ＞職員育成部＞「ケアの倫理」café 各地の取り組み

パスワードは各県連事務局にお問い合わせください。

